

べと病の防除を徹底しましょう

令和3年7月13日

那須農業振興事務所

1 特徴

べと病は、比較的冷涼で雨が多いときや、茎葉が茂り過ぎて風通しが悪い場合に発病しやすくなります。病徴は葉全体に発生し、その後子実に移行します。子実に感染すると、表皮が乳白色から黄褐色のカサブタ状になり、粒の大きさが健全粒に比べて小さくなり収量・品質の低下につながります。



べと病(葉)



べと病(子実・発生初期)



べと病(子実・発生後期)

2 R3年産の気象経過と注意点

6月15日から現在（6月第4半旬～7月第1半旬）まで断続的な降雨が続いており、合計で198.5mm(平年比141%)と平年に比べて多い状態となっています。

べと病は、例年9月頃の発生が多く見られますが、R2年産は7月の低温・日照不足の影響を受け、8月上旬には散見されました。

今年産についても、7月の降雨が多いことから、べと病の発生時期が早くなる可能性があるため、早めに対策を実施しましょう。

3 対策

- 開花10日前から子実肥大初期において予防的に薬剤防除を行いましょう。
（6月下旬播種の場合、7月下旬から8月下旬までが防除時期です。）
- 開花前にべと病が発生した場合は、茎葉に薬剤を散布しましょう。
- 発生が拡大する場合は、開花40日後までに追加防除を行いましょう。
（6月下旬播種の場合、9月上旬までが防除時期です。）

べと病防除に登録のある薬剤

ランマンフロアブル、アミスター20フロアブル（※）、ベトファイター顆粒水和剤、フェスティバルC水和剤、プロポーズ顆粒水和剤、リドミルゴールドMZ

※アミスター20フロアブルは耐性菌が発生しやすいので隔年使用とし、使用する場合、同一年における使用回数は1回とする。

～栃木県からのお知らせです～

6月～8月は、「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。



- 安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！
- 農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょう！